

文学部 英米文学科（3つのポリシー）

教育の理念

英米文学科は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則って、イギリス文学・アメリカ文学・英語学の3分野を柱とする広く深い人文教養について学究を深める。ここから得られた智に基づき、人間の本質を理解し、社会の諸問題の解決に多角的に取り組むことで、国際社会に貢献できる幅広い教養と専門性を身につけた人材の育成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英米文学科は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文学領域における基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）とともに、英米をはじめとする英語圏の文学や英語学についての専門的知識・研究方法を体系的に身につけている（英語で書かれた文学的確な読解を通じて、広く英語圏の人々の感性のありようを理解している。また、通時的・共時的な英語の特質を実証的に解明することによって、広く英語の言語文化を体系的に把握している）。英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、国際人に求められる十分なレベルを修得している。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見し、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。英米文学、英語圏文学、英語学を学ぶ上で必要不可欠な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。リーダー・シップやフォロワー・シップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

広範で多様な人文学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚とともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力			○	○		◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎			◎	◎	○	○
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎	◎		
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力			○	○		◎	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

英米文学科は、本学の教育理念に基づき、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築くとともに、専門教育科目では専門性を高める。全学共通科目と専門教育科目の履修により、学生が多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように教育課程を編成する。

また、駒澤大学の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 専門基礎教育として、1年次に必修科目を置く。高校で修得した英語力をブラッシュ・アップし、大学での専門教育への橋渡しとする「英語演習」、2年次以降の専門教育への導入として、イギリス文学・アメリカ文学・英語学の基礎的な知識や研究方法などを学ぶ「作品講読」、「英語学概論」を開講する。
- 2) より専門性の高い講義科目として、「イギリス文学史Ⅰ」、「イギリス文学史Ⅱ」、「アメリカ文学史」、「英語史」を開講し、学問的視野を広げる。また、特講・演習科目を開講し、各領域・分野の理解を深化させ、自らの専門的知識と問題意識をさらに高める。
- 3) 3-4年次にかけて、少人数クラスによる演習科目やゼミを組み合わせることで、より専門性の高い教育を行なう。読解と解釈、分析と考察、問題提起とディベート、ディスカッション、論述などについて実践的に取り組むことで、自律的な学習者としての姿勢を確立し、自らの見解を論理的に構築し、発信する力を培う。
- 4) 3年次までの学修内容をもとにして、自らが設定したテーマについて深く考究し、卒業論文としてまとめる。卒業論文では、文献の調査、資料の作成、分析、考察など、独自の研究成果を形にする。

2. 教育方法

- 1) 大学での専門的な研究に必要な知識や方法の修得が可能になるように、高校までの基礎的な学習内容を丁寧に確認する。
- 2) 異なる時代背景や文化的土壌における多様な価値観を踏まえつつ、様々な角度から文献や資料を読み解くことができるように授業を展開する。
- 3) 演習科目やゼミについては、履修に際して事前説明を行い、学生のニーズと授業内容とのミスマッチをできるかぎりなくす。また、授業の少人数制をはかり、他者と協働する力やコミュニケーション能力を鍛える。適宜、アクティブ・ラーニング型の指導方法も取り入れる。
- 4) 演習科目やゼミでは、履修者全体に対する指導のみならず、学生ごとにきめ細かな指導を行う。担当教員と学生との密接なコミュニケーションを促進し、専門分野の知識を深め、そ

れを活用できるようにする。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
		外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
		保健体育科目				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	演習科目		◎	◎	◎	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	
	卒業論文・卒業研究・資格試験など	○	◎	◎	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。	

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

英米文学科は、駒澤大学及び文学部の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 英米文学科が求める学生像

(AP1) 駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

- ・ 本学の建学の精神に基づき、英語圏の言語文化や社会に興味を抱き、言葉や人間に対する理解を深めようとする意欲と目的意識をもつ。
- ・ 特に、イギリス文学・アメリカ文学・英語学の3つの学問分野に強い関心があり、それを支える幅広い教養・読書経験を有する学生を求める。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

英語や日本語の高い運用能力があるだけでなく、英語圏の社会・歴史・文化に関する基礎的な学力が身についている。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

入学後に、プレゼンテーションやディスカッションなどが支障なくできる能力がある。日頃から、広く国際社会の問題に目を向けており、自身の意見を積極的に表現することができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

英語圏の文学・文化を深く学ぶとともに、英語圏以外の多様な社会の文化や伝統を尊重し、異文化交流に一定の理解がある。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・ 高等学校における「英語」及び「国語」の基礎的・応用的知識の修得に努める。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・ 英語圏の歴史・文化を理解し、その多様性を尊重する視点を身につける。
- ・ 英語で書かれた様々な文学作品に触れることで、言葉が紡ぎだす文化や思想を学び、自己の再発見に努める。
- ・ 英語コミュニケーション能力のさらなる向上を図るため、他者との議論や協働活動を高め、自らの知見を広げると共に、国際交流イベントに参加する等、自主性・積極性を身につける。

3) 英語能力を証明する検定試験に積極的にチャレンジし、英米文学科で専門的な学問を行うために必要な英語力を身につける。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
	S方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
総合型選抜	自己推薦選抜(総合評価型)	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	○	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	◎	◎	◎	
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
	指定校編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		英語		◎			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
事前課題			◎	○			

		面接・口頭試問	◎	◎	◎	◎	盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
外国人留学生選抜	出願書類		○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
	日本留学試験（成績）			○			
	小論文等			◎	○		
	面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		
編入学者選抜	出願書類		○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。
	小論文等			◎	○		
	英語			◎			
	面接・口頭試問	◎	○	◎	◎		